

令和7年度 中学生の「税についての作文」

青葉区長賞



寄り添い合う社会を実現するために

桐蔭学園中等教育学校 第三学年 佐藤 優理

今年は海の日之三連休中、参議院議員選挙があった。選挙期間中は、新聞やテレビのニュース、政見放送で、候補者や政党の主張に触れた。どれも実現してほしいと思う内容ばかりだった。消費税減税、教育支援、女性の働きやすさなど、家族と生活に密着した内容や、私の将来に深く関係する政策も多かった。これらを実現するには、どれもお金、つまり税金が必要だ。選挙で、どの政党・どの候補者を選ぶかを決めることは、税金をどのように使って欲しいのか、という選択をするということに等しい。未成年でも普段の買い物では消費税を含めた代金を支払っているのだから、選挙の機会にはせめて、自分の払った税金の使い道に関心を示していきたい。

私たちの生活空間には、税金が使われていない場所がないほどだ。道路・水道・教育・医療など、起きてから寝るまで、税金のお世話になっている。選挙は、今の社会の課題に合わせて、税金の使い道のどこを改善したらよいのか、何に税金を多く使って課題解決のために強化をするのか、という問いかけだと感じた。つまり、日本に生きる全員が、寄り添って助け合い、平和で安全な社会を作っていくには、どのような仕組み作りをしていくかを考える機会ということだ。人々が自分の財産から納めた大切

な税金、それは無限にあるわけではなく、予算の額は決まっている。公約では、効果的に誰にでも平等に使われるためのルール作りの案も掲げられていた。

選挙の報道を通じて私が読み取ったことは例えば少子高齢化社会の今、働けなくなった高齢者を支えることと、若者が子どもを持つことや教育に心配のない社会にすること、どちらがより大切、というのではない。どちらの立場にも寄り添って税金を割り振ることで、誰にとってもバランスの取れた、よい循環を作る社会となることだと思う。

それは国内だけでなく、外国との関係を考えても同じことだ。海外各国がどんな政治・文化・歴史をもつ国であるかを知り、お互いの得手不得手を補い合って協力していく。2012年、国連は、地球全体を一つの社会としてSDGsを設立し、誰一人取り残さない社会を目標に掲げた。最初は地球の気温上昇を抑える取り組みから始まったが、持続可能な開発として、貧困、教育、水、平和など、自然保護以外の課題に取り組み、目標を達成することが、地球温暖化対策につながり、全ての人によりよい未来が築けるとしている。

世の中の様々な課題は相互に関連し合っていると考える。税金は課題解決のために必要な資金、全ての人々がわかり合い、豊かになるために必要な社会全体の財産として使われなければならない。私たちが大人になるまでに出来ることは、勉学に励み、よりよい未来を作る納税者となるよう、また選挙で一票を投じることが出来る大人になることだ。

